



ガイドブック  
Guide Book

- P02 なぜ、ご近所みちあそび？／みちあそびのいいところ
- P03 ご近所みちあそびを始める流れ
- P06 準備の心得
- P07 こんな始め方があります
- P09 みちあそびのアイデア
- P10 成功のヒケツとヒミツ
- P11 Q&A
- P12 みちあそびについて／パートナー募集

# なぜ、ご近所みちあそび?

## 子どもの育ちに欠かせない、 ご近所のまなざし

子どもの数が減っていく中、子どもの姿が見えるようにすることは、これからのまちの成長と豊かさには欠かせない一面です。子どもにとっては、ふだんからまちの人たちと触れることで、自分たちの役割やルール、ご近所のおもしろさに気付き、保護者以外にも自分を支えてくれる人たちを知るきっかけになります。まわりの大人の温かいまなざしの中で子ども時代を過ごした大人は、きっとその先達を支えたいと願う存在になるでしょう。

## まちから失われた ご近所コミュニケーション

この数十年、都市部には、たくさんの公園ができました。その一方で、交通量の増加も含めた急激な時代の変化を通して、親子がご近所の道から消えたことで、ご近所のコミュニケーションは大幅に失われてしまいました。ご近所とのつながり合いがないまま、大人になり、子育てが始まっている人も増えています。その結果、お互いへの配慮や理解、意思疎通の方法が分からずに、大きなトラブルに発展してしまったケースも少なくありません。

## 「子ども」「みち」「あそび」を 通じて、地域で人と人が 出会える仕組みを

みちあそびの大切さは、実施までのプロセスにあります。既存の公園では利用者同士のつながり合いは必要ありません。ところが、みちを開くには、そこに関係する人たちとの調整が必要になります。それは、とても面倒くさいことのように見えますが、そこのやりとりが、ご近所での人と人との会話が生まれるきっかけとなります。

# みちあそびのいいところ

POINT

1

## 地域に知り合いが増える



町会やPTAの役員であれば当然ですが、そうでない人にとっては、ご近所に知り合いをつくるのは大変な時代になっています。子育て世帯が子どものいないご近所と知り合う機会は、その逆の場合も含め、なかなかありません。けれども、楽しいことがあれば、人はあつという間になかよくなるものです。笑顔の子ども姿を見ているだけでも、そこから会話が生まれることもあります。

POINT

2

## 地域が活気づく



今までは単に自動車を通り過ぎていた道路が、この地域に暮らしている自分たちの公共空間でもあることに気付いた瞬間から、様々な可能性やアイデアが見えてきます。そして、子ども・大人に関係なく、「自分たちのまちを自分たちで楽しくしたい」という感性を持つ人たちが増え、地域に活気が生まれます。

POINT

3

## 子どもが元気になる



みちという公共空間は、学校とちがい、異年齢・多世代の人たちとの出会いが数多く生まれるところでは、子どもたちが育つ過程でも、大きな刺激となるはずで、そうした関係性の中で育つ子どもたちは、大人になってからも、人間関係やコミュニケーションを大切にすることができるようになるでしょう。

# HOW TO

## ご近所みちあそびを始める流れ

### 1 仲間を集めましょう

知り合いや友人に「ご近所みちあそびをしてみたい」と話してみましょう。3人も集まれば、いつでもスタート可能です。



### 2 想いを語り合きましょう

大切なのは、「何をしたいか」よりも、「なぜしたいか」です。その想いが、周囲の人の協力を得る原動力になります。そうすると、自然に場所のイメージや、関わってほしい人、そこでやってみたいことが見えてくると思います。



### 3 場所を決めましょう

#### ● 商店街

商店街であれば、「買物道路」として、平日の夕方や週末の午後などに歩行者天国になっている場所が多くあります。ご近所みちあそびを最も実施しやすい場所のひとつです。中には、マルシェを実施するためなど、定期的に大きい規模で歩行者天国になる商店街もあります。

#### ● イベントとの共催

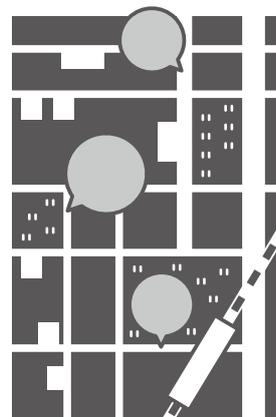
パートナー団体※の中には、防災イベントとの共催をすることで、ご近所みちあそびを実施しているところもあります。そうすることで、道路使用許可が下りやすくなる場合もあります。

#### ● おまつり

おまつりの開催ですでに交通規制が実施されている日に、その場所の一角を占有させてもらうのもよいでしょう。

#### ● 遊戯道路

東京都内には、住宅街の中にも、1960年代に創設された「遊戯道路」と呼ばれる規制道路が残っています。ただ、現状では交通規制がされないまま、機能していない場所がほとんどです。ご近所みちあそびの場所として復活させたいという場合には、町会やご近所などへの相談が欠かせません。



※ みちあそびパートナー団体  
地域で「ご近所みちあそび」に取り組む  
団体。詳しくはP12をご覧ください。

### 4 企画書をつくりましょう

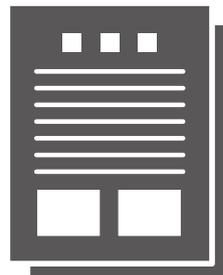
たくさんの人に説明できるように、A4・1枚でよいので、まずは企画書をつくってみましょう。

#### [企画書の主な内容]

● 企画の趣旨 ● 実施する道路 ● 候補日 ● 時間帯 ● 想定している遊びの種類 など

#### POINT!

最初は、来場者を何百人も見込まず、小さく始めた方が、混乱が少なく、継続もしやすくなります。



## 5

### 相談にいきましょう

ご近所みちあそびは、たくさんの人たちのつながりで成り立つ取り組みです。まずは、関係する人のところに相談にいきましょう。

#### ● TOKYO PLAYへ相談する

TOKYO PLAYでも、相談を受け付けています。東京都内で活動するパートナー団体の様々な事例や、道路を止めるまでのプロセス、関係機関との調整についてのアドバイスをすることができます。

#### ● 周りの人たちへ相談する

場所によっては、町会や商店街、団地の自治会、マンションの管理組合などの協力は不可欠です。ご近所みちあそびの実施の大きな力になってくれるはずです。そのときに、地域の事情をいろいろと教わりましょう。役員さんが直接の知り合いでなければ、つながる知り合いの方を探してみましょう。

#### ● 児童館や学童保育などへ相談する

ふだんから地域での活動を積極的に展開している児童館や学童保育、子育てひろば、冒険遊び場、子ども劇場や、PTA、児童民生委員、青少年委員の人たちも、力になってくれるかもしれません。

#### POINT!

公道を使用する場合には、最寄りの警察署に「道路使用許可」の申請が必要です。詳しくはP05の「道路使用許可と道路占用許可」を参照してください。



## 6

### 準備を進めましょう

準備については、別ページに詳細を掲載しました。意外とたくさんのご意見を考える必要があります。ご近所みちあそびは、プロセスが大切です。少人数で苦しむのではなく、たくさんの人に声をかけて手伝ってもらいながら、楽しく準備を進めましょう。 ▶ P06へ





## 「道路使用許可」と「道路占用許可」について

実施を予定している場所が歩行者専用道路でない場合、最寄りの警察署に「道路使用許可」の申請が必要になります。すでに自治会や町会、商店街などに了解が得られているか、自治体の後援があると、申請は通りやすくなります。申請書は、最寄りの警察署のホームページでもダウンロードできますが、窓口で事前に相談しにいくとよいでしょう。その場で、道路使用許可が下りる可能性やその他の必要書類についてアドバイスをもらうことができます。道路に簡易テントや電源などの固定物を置く場合には、警察署への申請とは別に、自治体への道路占用許可の申請が必要です。この申請には、警察署からの意見書の添付など、煩雑なやり取りが必要になります。小さく開催したい場合は、この申請が必要ない程度の内容をお勧めします。

### [申請に必要なもの]

申請書以外に、以下のような資料が必要となります。

すべてを企画書としてまとめてもよいでしょう。

- 開催概要(目的、日時、場所、主催等)
- 当日の警備計画
- 拡大配置図(道路幅員や延長も含む)
- 道路を規制した時のう回路を示す地図
- 交通が規制されることを示す掲示案

# PREPARE 準備の心得

ご近所みちあそびを始めるためには、様々な準備が必要になります。  
みんなで協力し合い、楽しく準備を進めましょう。

## ご近所へのごあいさつ

実施する場所の周辺にあるお宅やお店などに、ごあいさつに伺いましょう。そのときに、趣旨を説明するのはもちろん、どのような配慮が必要かを知ることでもできるでしょう。

### ● チラシを作る

趣旨をわかりやすくまとめたチラシを用意するとスムーズです。ご近所へチラシを配布し、みちあそびのお知らせをしましょう。

### ● 場所の再検討も視野に入れておく

今のご時世では、残念ながら、道で人々が遊び、楽しむことは当たり前ではありません。たとえ、みなさんのご近所みちあそびが意味ある理念を掲げた活動だとしても、すべての人が手放しに賛成するとはかぎりません。実施予定の場所の近所には、病気療養中の方や、夜勤明けで昼間は寝ている方、ご近所での関係でつらい思いをしている方がいる可能性もあります。事情によっては、別の場所の検討も視野に入れてください。



## 保険の加入について

参加者がけがをしてしまう場合や、誤って車を傷つけたり、ものを壊したりしてしまうことがあるかもしれません。もちろん、安全対策や事前の工夫は大切ですが、イベント的な開催となる場合には、保険への加入も考えてみましょう。

### ● 保険の種類

保険には、傷害保険・賠償責任保険の二種類があります。この二種類でおおむねの保障を網羅することができます。ご近所の知り合いに保険会社の方がいれば、その人に相談してみましょう。一般的な保険の代理店でも対応可能です。

### ● 保険料の調達

保険料は、人数や規模に応じて高くなりますので、規模の大きい活動をする場合には、資金調達を同時に考える必要が出てきます。

## 安全対策

### ● けがにつながりそうな場所をチェック

ご近所みちあそびで心配なのは、けがだと思います。子どもの遊びにはケガがつきものとは言いますが、できれば起きてほしくないものです。

### ● 車両の出入りや駐輪場をチェック

開催中の車両の出入りや安全への配慮、駐輪スペースをどうするかなどについても考えておきましょう。

### ● 交通規制の準備

道路を止めるための資材としては、カラーコーン、バー、規制看板(手作りでも可)が必要になります。規制箇所に立つ人を目立たせるには、蛍光のビブスやジャケット、誘導灯が必要です。趣旨を書いた看板もあると、さらによいでしょう。

### ● 救急箱の準備

誰かがけがをしたときのために、救急箱の用意が必要です。近隣の病院の確認もしておきましょう。



# こんな始め方があります

過去にご近所みちあそびを始めた方々の活動事例をご紹介します。  
ご近所みちあそび活動を始めるきっかけの参考にしてみましょう。

## 商店街にて

### 日常の買物道路を利用

@北区 豊島中央通り商店街

歩行者天国として今でも全国的に積極的に活用されて残っているのは、平日の夕方や土日休日の午後などに設定されている「買物道路」です。北区豊島では、「まちの人たちに見守られて、子どもはのびのび遊び、親は安心して子育てができた」という願いから、保育園の父母の会の取り組みとして始まりました。同じ保育園に子どもを通わせる商店街の方がいたことから、話がすぐに進みました。当日の交通整理では、保育園のお父さんたちが活躍。子どもだけでなく、大人も思い思いに楽しみながら過ごす姿が見られました。



こどものポケット  
小川さん・松崎さん

【小川】最初は、保育園父母の会の地域係として、園庭で遊び場づくりをして地域の親子にも声をかけましたが、参加は少数。みちあそびのよいところは、地域の子どもも大人も気軽に参加できて、楽しくつながれるところだと思います。  
【松崎】子どもが小学生になると、つい不安から子どもの時間を習いごとで埋めてしまうという話をよく聞きました。ここの商店街は、子どもたちを見守ってくれる人が多いんです。そのことにたくさんの保護者の人が気づききっかけになればと考えています。



### イベントの一角を利用

@三鷹市 三鷹中央通り商店街

三鷹駅前通り商店街では、月1回の第4日曜日に道路を封鎖してマルシェが行われます。この時を利用して、交差点の一角をご近所みちあそびの場として開放しています。この日は、交差点いっばいに敷かれた人工芝の上で、ふだんは腰かけることのない地面にたくさんの親子が靴を脱いで過ごしました。また、地面に描かれたチョークを落とすために、子どもたちがデッキブラシを使って洗い流していると、そばのお店の方たちが感銘を受けて、お水を提供してくださるなど、うれしい出会いもたくさん生まれました。



NPO法人 子育てコンビニ  
佐藤さん

毎回来てくれる通りがかりの人や、「こういうの、好きなんだよね」と言ってくれる人たちもいます。このみちあそびは、知り合いが増えるというか、人間同士のつながりができるので、「孤独な育児からの解放」というNPOのミッションの下でやっています。まずは、その場しのぎでも、お母さんが何かをワッと出せてニコニコできればいいなと思います。今は目立つ場所ですが、将来はそれぞれの地域でできたらいいですね。

## 他のイベントとの共同実施

### 防災訓練といっしょに

@千代田区 神田富山町

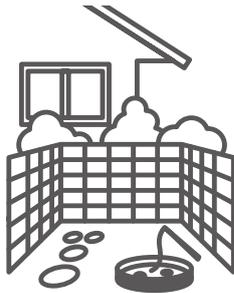
ふだん規制されていない道路でみちあそびを実施するのは、なかなか難しいものです。そこで、千代田区の神田富山町会青年部では「プレイストリート & 防災イベント」として、ご近所みちあそびを開催しました。ふだんはなかなか子どもが集まらない地域の防災訓練とは対照的に、多くの子どもたちが集まりました。スタンドパイプの設置やはしご車体験、煙体験など、子どもたちや親子でも見学・体験できるような機会になりました。水消火器訓練では、町会の人々が火に扮して子どもたちの発射する水の的になり、真剣かつ大いに盛り上がる訓練となりました。



富山町会青年部  
北清さん

これまでの地域のイベントでは、子どもをお客様としてとらえがちで、僕らがゲームや企画を考えて運営していました。ところが、みちあそびでは子どもが自分たちでこの空間の楽しみ方を考え、遊び、片付けすらも楽しむ姿に感激しました。また、防災イベントとセットになることで、参加者が多世代に広がり、防災と遊びを通して、ふだん関わりが少ないマンション居住者、昔から住むお年寄り、地域の事業所の方々が、お互いの存在を意識し、新たなつながりが生まれたのを感じます。現在は、年1回のイベントですが、自分たちが無理して拡大せず、神田の各地域が各々のイベントにみちあそびを組み入れていくようになれば、さらに広がるのではと感じています。

## 独自にやってみる



### 自宅の駐車場を使って

練馬区のあるお宅では、道路に面した駐車スペースにプールを出して、どじょうを放しました。そして、そこを通りがかった近所の子どもや大人が立ち止まり、交流の場が生まれました。ただ、この場合は、近隣の方々とコミュニケーションをていねいにとることを強くお勧めします。それぞれの家庭にはそれぞれの事情があり、良かれと思った行動でも、別の方にとっては大きな迷惑となることもあります。まずはご近所に相談してみましょう。

### ふだん規制されていない道路を使う

〈防災訓練といっしょに〉の例で、「ふだん規制されていない道路でみちあそびを実施するのは、なかなか難しいものです」と書きましたが、地域の中で仲間を見つけ、企画を検討して、町会の方々のところへ相談に伺うというステップを一つ一つ登って行くことによって、実施の可能性は拓けます。



祖師谷みちとの遭遇  
プロジェクト  
村松さん

3時間ばかりの開催でしたが、子どもも大人も、たくさんの方が自然に集いました。当初、公園でやるかどうかという声もありましたが、地域の様々な方とのコミュニケーションがあって初めて成り立つ「道」での実施にこだわりました。子どもたちは、こうした地域コミュニティで先輩からいろんなことを教わったものです。今こそ、道で遊ぶことが必要なんだと思います。近くの団地に住むおばあちゃんが、「子どもの声がうるさいという人もいるけど、私はそうは思わない。窓を開けて子どもの声が聞こえると、生きてる!と感じる。団地も子どもが減った。定期的に行ってみては」とお話をくださったのが、うれしかったです。

# みちあそびのアイデア

こんなものがあると楽しくなるかも！ 近くのお店でどんなものが手に入りそうですか？  
みんなでご近所を回ってみるのもおもしろいと思います。

## 絵本



ご自宅に眠っていませんか

## 王冠・ワインコルク



居酒屋・ワインバー  
など

## ダンボール



電気店・スーパー・  
八百屋など

## 古いヘアカタログ



美容室・理容店  
など

## チョーク



大きなキャンパスに思い切り落書き！ みんなで  
力を合わせれば、掃除もあつという間です。

※地域によって、地面に描くことができない場合もあります。



## シャボン玉



ふしぎな魅力でたくさんの方が集まります！ 近くで食事をして  
いる人や、ご近所の洗濯ものには配慮しましょう。

※タオルを敷くなど、道路にできるだけこぼさないような工夫が必要です。



## 将棋・囲碁・オセロ・トランプ・ボードゲーム



道で遊ぶと、楽しさが一味ちがいます。昔は、将棋や囲碁をさす姿があちこちで見られたものです。

## コマ・けん玉・おはじき・お手玉・ビー玉・ゴム



いつの時代も、人気のアイテムです。おじいちゃん、おばあちゃんも一緒に遊ぶことができます。



## 大なわ・ロープ



家にあるなわとびをつないで使うこともできます。太いロープがあれば、つなひきも！

# SECRET OF SUCCESS 成功のヒケツとヒミツ

ご近所みちあそび活動を成功させるためのヒケツとヒミツをまとめました。



## そこに暮らす人がやるのが、一番いい

どこかの業者に依頼したイベントも悪くはありませんが、くらしに密着した取り組みにするなら、自分たちの大切にしたいことを自分たちでするのが一番です。ご近所みちあそびの成功のヒケツは、そのプロセスにあります。実現までには、近所の方たちとたくさん話をするところもあるでしょう。そこでの共有や共感の輪の広がりを通して、くらしが豊かになっていきます。



## 子どもは自分で遊びを見つける力を持っています

子どもが飽きないようにと、たくさんのおもちゃや企画を持ち込みたくなってしまうかもしれません。けれども、そこは最小限にしてみましょう。すると、子どもたちは、大人では気づかなかった道のおもしろさを発見していく姿を見せてくれるでしょう。大人のみなさんは、そうした子どもたちの「研究者」として、発見する活躍をしてください。

## みちあそびの材料は、地産地消で

せっかくのご近所みちあそびなので、実施場所の周りで手に入る素材や資材を探しましょう。近くのお店から、「不要だけれど、遊びには使えるもの」をいただくことができるかもしれません。そうしたコミュニケーションも、ご近所みちあそびをより楽しく、継続的にしていくためには欠かせない要素です。



## 広報はご近所に

「宣伝は、あまりしていません。広報が苦手というのがありますが…。でも、私たちは遠くの人よりも、ご近所の人とつながりたいのです。」これまでに、いくつかのパートナー団体の方から、そうした言葉を聞いてきました。「とうきょうご近所みちあそび」は、遠くの人をお客さんとしてたくさん呼ぶためのイベントではなく、ご近所の人たち

がゆるやかにつながることで、くらしを豊かにしていくプロジェクトです。ところが、みなさんが数百人を超える来場者のための対応に追われてしまうと、本来の目的を見失いがちになります。ご近所みちあそびには、適正人数がありそうです。パートナー団体の中には、「SNSには掲載しない」「商店街へのチラシの掲示は3日前」というところもあります。みなさんの中でも、ほどよい広報を考えてみてください。

## 次の展開は、どうしよう？

初めてのみちあそびが成功に終わったとき、次回はどうかと考えることでしょう。でも、そんなときに、「うまくやれば、もっとたくさんの人を呼べるよ」「儲けを出せる方法もあるよ」と、様々なアドバイスをもらうこともあるでしょう。一呼吸おいて、「何のために、このみちあそびを始めたんだっけ？」ということ振り返ってみましょう。「来場者増」のような、一般の商業イベントの成功モデルは、必ずしも私たちの成功モデルではありません。



## 初回の盛り上がりすぎに注意

初めてのご近所みちあそびでは、話の盛り上がりで、あれもこれもと企画が生まれることがあります。けれども、直前になって実施体制を考え始めたら、大変すぎてパニックを起こしてしまうこともあります。また、最初に詰め込みすぎると次回の実施のハードルが上がりがちなので、継続を考えるのであれば、特に初回は気をつけた方がいいでしょう。



## 細く、長く。

大きな打ち上げ花火よりは、小さいけれど長く楽しめる線香花火のように。ご近所のくらしの中で、子どもたちは日々育っていきます。ご近所との関係も、日々積み重なっていきます。そこに寄り添うご近所みちあそびを目指すには、年1回よりも、月1回、週1回という方がよさそうです。イギリス・ロンドンのある住宅街では、月1

回2時間のみちあそびを実施しながら、年1回だけ近隣の多くの方を招いてパーティーを開くそうです。でも、日常では、規模の大きいことはできません。小さくても、地味でもよいから、日常の中に根づいていくことが大切です。私たちは、そんなご近所みちあそびが、東京中に広がっていくことを願っています。



# よくある質問

ご近所みちあそびについてよくある質問をご紹介します。

## Q ■ 近隣から反対意見が上がった場合、どうすればよいでしょうか？

A. みなさん、それぞれになんらかの事情があると思います。一方的にこちらの意向だけを押し付けることは避け、先方の声に耳を傾けて、不安に感じていることなどを伺うようにしましょう。その上で、不安を解消する方法を一緒に考えることが大切です。また、町会長さんなど地域の事情に詳しい方に相談するのもよいでしょう。それでも、どうしても解消が難しい場合は、開催場所を変更することも含めて、再検討しましょう。地域での取り組みですので、無理に実施すると関係が悪くなり、継続が難しくなってしまいます。

## Q ■ 初めて実施するのですが、どのくらいの時間やるのがよいですか？

A. 特に決まりはありません。みなさんの体力にもよりますが、あまり長い時間はお勧めしません。実施場所の周辺に暮らす方々の事情との兼ね合いで検討するのがよいでしょう。これまでの実績では、2～3時間くらいの開催がほとんどです。

## Q ■ 緊急車両が通る場合は、どうしたらよいのでしょうか？

A. 救急車などの緊急車両は、遠くからサイレンを鳴らしてやってきます。その音が聞こえてきたら、開催場所を通ることを前提に、速やかに緊急車両の通行を確保してください。カラーコーンやバリケードなどは、すぐに撤去できるような設置方法を考えましょう。横断幕などをつける場合は、すぐにひもを切って取り外せるような掲示方法を考えてください。

## Q ■ 使わない方がよい遊びの素材はありますか？

A. 周囲の状況にもよりますが、ボールの使用は気をつけた方がよいでしょう。特に商店街などでは、思わぬところに飛んだボールでお店に被害が及んでしまうことがあります。紙飛行機など、どこに飛んでしまうか分からないものも、お勧めできません。また、ペンキや粘着性のものなど、掃除をしても落とせそうにないものの使用はやめましょう。

## Q ■ TOKYO PLAYには、どのようなサポートをお願いできますか？

A. このガイドブックの他に、ホームページでは、みちあそびを実施する際に使える各種書類の作成例や、チェックリストなどがダウンロードできます。また、みちあそびパートナーに登録していただくと、備品の貸し出しや、地域での活動の協力者を探す際のサポートなどを受けられます。パートナー募集については、次のページもご覧ください。

## Q ■ プログラムを用意せずに子どもたちが遊んでくれるか心配なのですが、大丈夫でしょうか？

A. 世の中には様々な子ども向けのプログラムが行われています。そうしたものと比較すると心配になるお気持ちもわかります。けれども、子どもは自分で遊びを見つけ、生み出す力を持っています。そこで、「ここで遊んでもいいんだ」という雰囲気をつくるためにも、用意した材料で大人がまずは遊んでみることをお勧めします。子どもたちはその姿に誘われて、自分たちのやりたいことを始めるでしょう。

## Q ■ 参加者からお金をとってよいのでしょうか？

A. 「ご近所みちあそび」は、お金の有無や家庭の事情に関わらず、どの子どもも参加できるようになっていることが前提となる取り組みです。ですので、参加費はとらないようにしてください。また、商店街などでの実施では、商品の販売のためのテーブルが設けられていることがあります。ご近所みちあそびが販売行為の一部だと捉えられないように、外部の人がお店を出す場合には、関係者との相談・調整をするようにしましょう。

## Q ■ 実施した後に必要なことはありますか？

A. 「ごみや汚れが残っていないか」「けがをした人やトラブルはなかったか」などを確認しましょう。意外と忘れがちなのが、お世話になった方たちへのお礼です。近隣のお店やおうちの方々はもちろん、実施に協力してくださった方々にも、実施直後に直接お礼に伺いましょう。その時に、主催側では聞けなかったお話を伺えることもあります。簡単な報告書をつくるのもよいでしょう。

その他のよくある質問はTOKYO PLAYのサイトでもご紹介しています！

<http://tokyoplay.jp/playbourhood/>

# ABOUT

## Playbourhood Street Tokyo (とうきょうご近所みちあそび) project について

くらしに身近な道での遊びなど、みんなが楽しめる取り組みを通して、  
大人と子どもが共存する豊かな地域をつくるプロジェクトです。

### 目指す姿

私たちのまちを私たちの手で住みやすくできるように。「自動車優先の空間」だけではなく、そこに暮らす人たちの「多世代交流」や「子育て・育ち」のための空間としての「道」を東京じゅうに広げていくことをめざしています。

兄弟が減る中でも、子どもたちがたくさん遊び、地域の人たちの関わりや見守りの中で育っていけるように。子どもも、地域の一員として、まちの人たちのくらしも大切に育っていけるように。誰もが、お互いにやさしく、お互いに守り合えるまち。「遊び」をキーワードに、誰もが通る「道」から、そんなまちづくりを始めたいと考えています。

### 取り組み

地域で「みちあそび」に取り組んでいただける団体・組織(みちあそびパートナー)を募集し、道を通した子育て・多世代交流が当たり前になる東京へ向けて、一歩ずつ進んでいきます。

- 1 2017年 東京都内で20か所** 初年度の2017年度には、東京都内にて20か所での実施を目指します。
- 2 2020年 東京都内で100か所** 実施パートナー募集から3年後の2020年には、東京都内にて100か所での実施を目指します。
- 3 東京都・都内市区町村**
  - 地域交流道路制度の創設
  - 都内各地で定期的なご近所みちあそびの開催
- 4 道を通した子育て・多世代交流が当たり前になる東京へ**
  - 子育て・育ちしやすい東京 ● 防犯・防災力の高い東京
  - 地域のことを子どもがよく知っている東京 ● 多世代交流があふれる東京 ● 高齢者がまちに出られる東京 ● 多世代協働・互助貢献社会としての東京

### 運営について



#### NPO法人 ふれあいの家 - おばちゃんす

##### プロジェクト全体の調整、管理

赤ちゃんから高齢者までが、世代をこえて、ふれあい暮らせる、そんな「まち」を目指し、「子どもと大人のパートナーシップ」を原点に、世代をこえて誰もが気軽に集える居場所として活動し、この活動を通じて新しい時代が求める子育て・育ちの社会化を推進しています。



#### 一般社団法人TOKYO PLAY

##### プロジェクトの企画、調整、運営、各地での「みちあそび」開催に向けた支援

「すべての子どもが豊かに遊べる東京を」というミッションを掲げ、それぞれの立場の人たちだからこそできる「ワン・アクション」づくりを目指して、キャンペーンやイベント出展、調査研究、出版など、様々なプロジェクトに取り組んでいます。

本プロジェクトはHSBCグループの支援を受けて実施しています。

### みちあそびパートナー募集

地域で「みちあそび」に取り組む団体・組織です。「みちあそび」を実施したいという思いがあり、プロジェクトの趣旨に賛同していただける際には、ぜひご登録ください。そして、みなさんの実践で得たノウハウやヒント、成果をたくさんの人に発信していきましょう。

#### パートナーに登録すると……

- 実施に関する情報・ノウハウの提供 (道路使用～遊びのきっかけづくりまで幅広く)
- 備品の貸し出し (芝生ロール、ノボリなど) ● イベント等の広報協力
- 地域での活動のパートナー探しの協力 ● 初開催の時には準備のお手伝いなど

登録についての詳細は、右のQRコードまたは下記URLよりアクセス!



### お問い合わせ

一般社団法人TOKYO PLAY 担当: 嶋村、高橋 Email: info@tokyoplay.jp

<http://tokyoplay.jp/playbourhood/>

